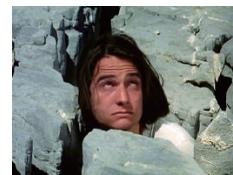


上映スケジュール

10/18土—10/31金

10/18土	14:20—15:50	<パトリシア・マズイ> 走り来る男
	16:00—17:55	<パトリシア・マズイ> ボルドーに囚われた女
10/19日	14:20—15:55	<リュック・ムレ> ビリー・ザ・キッドの冒険 + ウニの陰謀★
	16:50—18:30	<リュック・ムレ> カップルの解剖学 + 開栓の試み
10/20月	14:20—16:00	<リュック・ムレ> ブリジットとブリジット + 黒い大地
	16:10—17:55	<カンヌ傑作選> 歓喜
10/21火	14:20—15:55	<リュック・ムレ> メドールの帝国 + 映画館の座席 + ロングスタッフ氏の亡靈
	16:10—17:55	<カンヌ傑作選> ジムの物語
10/22水	14:20—17:10	<カンヌ傑作選> パシフィクション
10/23木	14:20—16:16	<カンヌ傑作選> ゴールドマン裁判
	16:25—18:00	<リュック・ムレ> ビリー・ザ・キッドの冒険 + ウニの陰謀
10/24金	14:20—16:05	<カンヌ傑作選> ジムの物語
	16:15—17:50	<パトリシア・マズイ> 走り来る男
10/25土	18:00—20:45	<カンヌ傑作選> パシフィクション
10/26日	18:00—19:50	<カンヌ傑作選> ジムの物語
10/27月	16:50—18:40	<パトリシア・マズイ> ボルドーに囚われた女
	18:50—20:20	<パトリシア・マズイ> 走り来る男
10/28火	16:50—18:30	<リュック・ムレ> カップルの解剖学 + 開栓の試み
	18:40—20:20	<リュック・ムレ> ビリー・ザ・キッドの冒険 + ウニの陰謀
10/29水	16:50—18:30	<リュック・ムレ> ブリジットとブリジット + 黒い大地
	18:40—20:20	<カンヌ傑作選> 歓喜
10/30木	16:50—18:31	<カンヌ傑作選> ジムの物語
	18:40—20:20	<リュック・ムレ> カップルの解剖学 + 開栓の試み
10/31金	16:50—18:46	<カンヌ傑作選> ゴールドマン裁判
	18:55—20:25	<リュック・ムレ> メドールの帝国 + 映画館の座席 + ロングスタッフ氏の亡靈



★アフタートークイベント★ 10/19日 14:20

リュック・ムレ監督『ビリー・ザ・キッドの冒険』+『ウニの陰謀』
トークゲスト：葛生 賢さん（映画作家・映画批評家）

10/18(土) — 31(金) 15作品一挙公開!

【当日料金】一般 1,900円

会員・大專・シニア 1,300円／高校生以下 800円

*チケットは上映3日前より販売スタート！（劇場受付9:30～、Web10:00～）

横浜
シネマリン

045-341-3180

www.cinemarine.co.jp



主催 横浜シネマリン、一般社団法人コムニティシネマセンター

企画協力 アンスティチュ・フランセ日本 助成 アンスティチュ・フランセ/パリ本部、ユニフランス

アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム オフィシャルパートナー CNC、笹川日仏財團

特別協力 JAIHO 協力 ブンクテ フィルム提供及び協力：フレーム・デュ・ロサンジュ、MK2

JAPAN
COMMUNITY
CINEMA
CENTER

INSTITUT
FRANCAIS
アンスティチュ・フランセ

CNC
FESTIVAL
INTERNATIONAL
DU FILM
FRANCAIS
JAIHO

mois de
la critique
映画批評月間

Mois de la critique
Nouveaux rendez-vous du cinéma français

映画批評月間

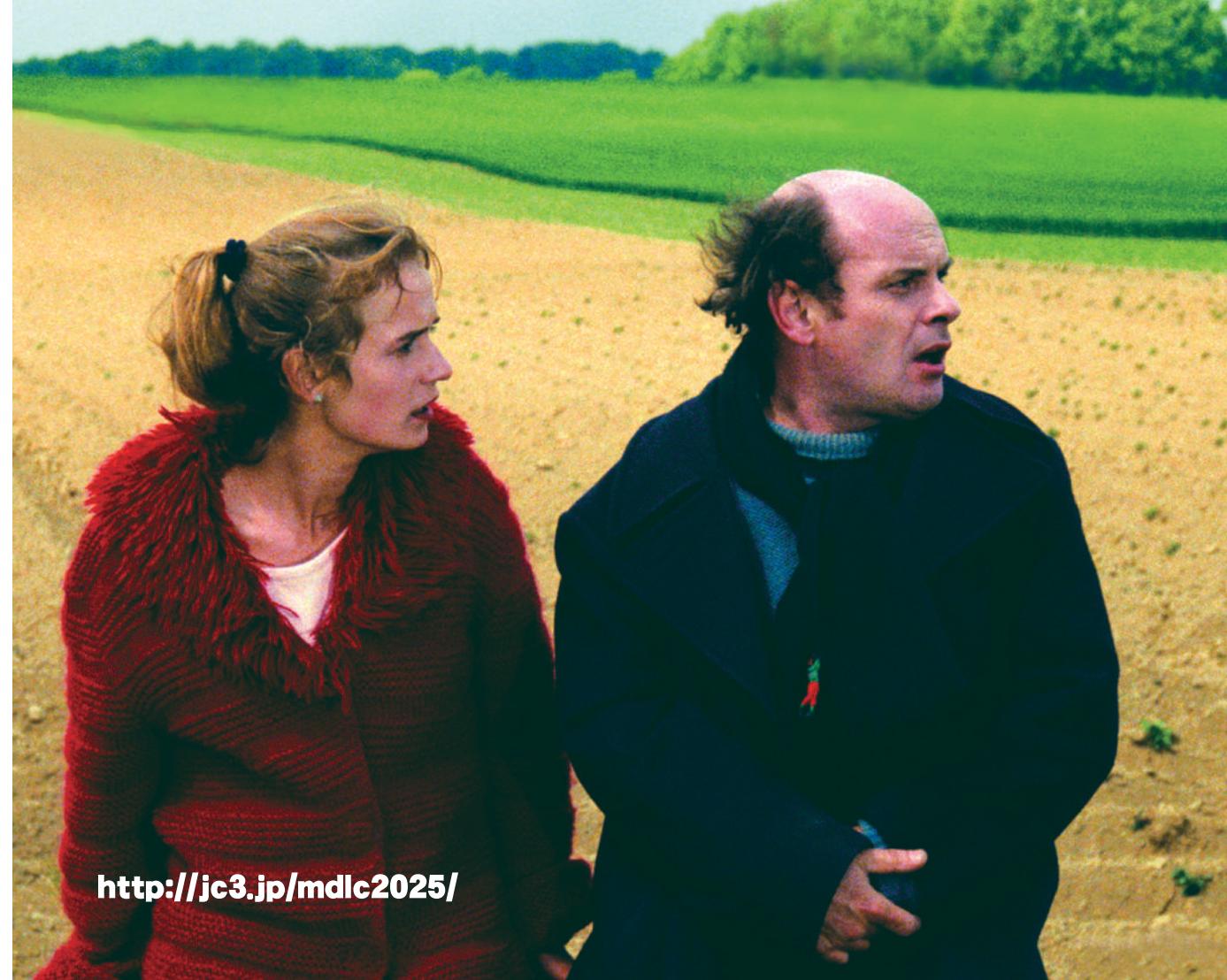
フランス映画の現在 2025

10/18(土) — 10/31(金) | 横浜シネマリン

カンヌ映画祭が
選んだ傑作！

パトリシア・マズイ
監督特集

知られざるヌーヴェル・ヴァーグ
リュック・ムレ特集



日本で上映される機会のないフランスの最新作、あるいは隠れた名作を紹介する特集「映画批評月間～フランス映画の現在」。2025年は、パトリシア・マズイ監督の初長編作『走り来る男』と最新作『ボルドーに囚われた女』、カンヌ国際映画祭をはじめとする映画祭や批評家たちから高く評価された日本未公開の4作品、また「知られざるヌーヴェル・ヴァーグの作家」リュック・ムレの作品を上映します。

『映画批評月間／フランス映画の現在2025』のウェブサイトで、主要紙(誌)に掲載された批評家のコメントやパトリシア・マズイ監督の言葉、リュック・ムレ監督のプロフィールなどを読むことができます!
<http://jc3.jp/mdic2025/>

カンヌ映画祭が選んだ傑作!



©Films Boutique

パシフィクション *Pacification d'Albert Serra*

[スペイン／フランス／ドイツ＝ポルトガル／2022年／165分／カラー]

監督:アルベルト・セラ 出演:ブノワ・マジメル、ハオア・マハガフナウ、マルケ・スジニ 第75回カンヌ国際映画祭コペベティション部門出品／「カイエ・デュ・シネマ」2022年ベストテン第1位

南太平洋のフランス領ポリネシアにある「デ・ローラー共和国」。高等弁務官は、完璧なマナーを身に着け、公式の場でも裏社会でも、地元住民の動向を怠りなく注視し、抜かりなく身を処してきた。太平洋上で潜水艦が目撃され、フランスの核実験再開の噂が流れる中、海軍総督らが島に上陸、不穏な気配が島全体を覆い始める。



©DR

欽喜 *Le Ravissement d'Iris Kaltenbäck*

[フランス／2023年／97分／カラー]

監督:イリス・カルテンバッケ 出演:アフシア・エルジ、アレクシ・マナンティ、ニナ・ミュリス 第76回カンヌ国際映画祭批評家週間出品

仕事熱心な助産師のリディアは恋愛で破局を迎えていた。同じ頃、親友のサロメが妊娠、共に出産までのときを過ごす。難産を乗り越えて新生児を取り上げ、名付け親となり、育児にも積極的に協力する。そんなある日、かつて一夜を過ごしたミロスと再会、孤独なリディアの小さな嘘はやがて人生を賭けた大きな事件へ広がっていく。



©Séverine Brigitte

ゴールドマン裁判 *Le Procès Goldman de Cédric Kahn*

[フランス／2023年／116分／カラー]

監督:セドリック・カーン

出演:アリエ・ワルトアリテ、アルチュール・アラリ、ステファン・グラン・ティリー 第76回カンヌ国際映画祭監督週間オープニング作品

1970年代にフランス中を騒がせた「ピエール・ゴールドマン事件」の法廷を再現した裁判映画。複数の強盗罪で起訴されたゴールドマンは、自身の罪を認めながら、薬局で起きた殺人事件だけは否認する。警察の社説な捜査や曖昧な証言、ユダヤ人差別など数々の問題が浮上してくる。法廷でのやり取りがドキュメンタリーのようにカメラに収められていく。



©DR

ジムの物語 *Le Roman de Jim d'Arnaud et Jean-Marie Larrieu*

[フランス／2024年／101分／カラー]

監督:アレノー＆ジャン＝マリー・ラリュー

出演:カリム・ルクル、レティシア・ドッシュ、サラ・ジドー、ベルトラン・プラン 第77回カンヌ国際映画祭カンヌ・プレミア出品

カリム・ルクル 第50回セザール主演男優賞受賞

ジュラ山脈に囲まれた街サン・クロードで、心優しい青年エメリックはかつての仕事仲間フロランスと再会する。妊娠6ヶ月のフロランスと暮らすようになったエメリックは、生まれてきたジムを自分の子のように育て、ふたりの間には強い絆が生まれる。しかし、ある日ふたりの前に実の父親クリストフが現れる。それはメロドラマの始まり。そして父親としての放浪と冒険の旅の始まりであった。

パトリシア・マズイ監督特集 Focus Patricia MAZUY

パトリシア・マズイは、フランス映画の中でも、ユニークで力強いスタイルを確立している。アメリカ滞在中に出会ったアニエス・ヴァルダの庇護のもと、最初の短編をつくり、ヴァルダの最高傑作と評される『冬の旅』(1985)で編集を担当する。初長編監督作『走り来る男』以降、マズイは、激しい感情、あるいは断固たる決意をひめたヒロインを主人公としている。フォードとカーベンターというアメリカ映画の偉大なるふたりのジョンをこよなく愛し、広い空間と独特なロケーションを好み、階級闘争や、馬や牛といった動物への情熱、自然との関係を描きながら、彼女の映画は人間の糾余曲折する運命に光を当て続けている。最新作『ボルドーに囚われた女』ではイザベル・ユペールとアフシア・エルジ、ふたりの偉大な女優が演じる世代、階層の異なる女性間の友情、テンション、サスペンスが見事に描かれている。



走り来る男 *Peaux de vaches*

[フランス／1988年／87分／カラー]

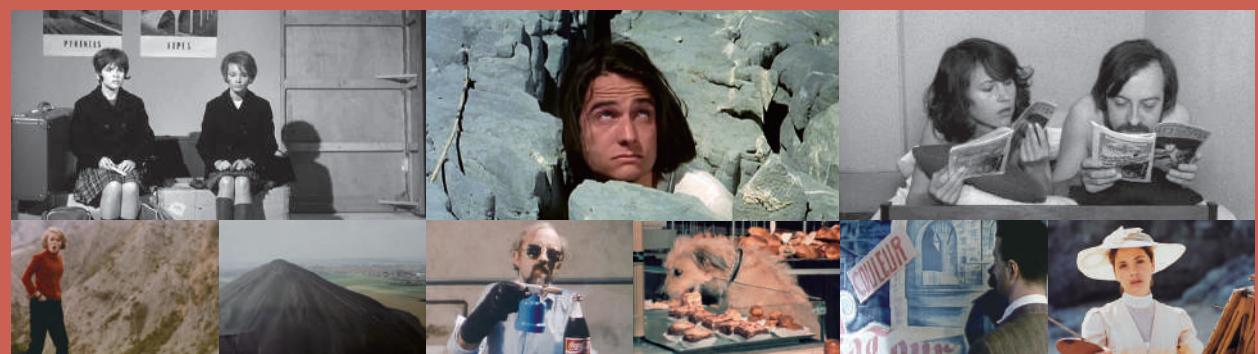
出演:ジャン＝フランソワ・ステヴォン、サンドリーヌ・ボネール、ジャック・スピエセル 1989年カンヌ国際映画祭ある視点部門出品作品

北フランスのある田舎町、ジェラールは兄とともに酩酊し、農場に火事を起こしてしまったままそこにいた浮浪者が命を落してしまう。10年後、刑務所から出所した兄は、美しいアニーと結婚し、娘ができ、あらたに農場を持つジェラールのもとに戻ってくる。はたして彼は復讐を果たしに戻ってきたのだろうか…。撮影はヌーヴェル・ヴァーグを支えた名匠ラウル・クラール。

知られざるヌーヴェル・ヴァーグ:リュック・ムレ特集 Rétrospective Luc MOULLET

「リュック・ムレは、ブニュエルとタチの両者を継承するおそらく唯一の存在だ」——ジャン＝マリー・ストロープ(映画作家)

ヌーヴェル・ヴァーグ唯一のバレスク映画作家であり、フランスをはじめ世界的にカルト的な人気を誇るリュック・ムレ。コメディ、冒険活劇、西部劇、日記、ロードムービー、犯罪映画、そしてカップル、地理、文学作品を題材にした作品など、あらゆるフォーマット、あらゆるジャンルで38本の映画を生んでいる。



(上段左から) ブリジットとブリジット *Brigitte et Brigitte* (1966) ©DR／ビリー・ザ・キッドの冒險 *Une Aventure de Billy le Kid (A Girl Is a Gun)* (1971) ©DR／カップルの解剖学 *Anatomie d'un rapport* (1976) ©DR
(下段左から) 黒い大地 *Terres noires* (1961) ©DR／ウニの陰謀 *La Cabale des oursins* (1990) ©DR／開栓の試み *Essai d'ouverture* (1988) ©DR／メドールの帝国 *L'Empire de Médror* (1986) ©DR／映画館の座席 *Les Sièges de l'Alcazar* (1986) ©DR／ロングスタッフ氏の亡霊 *Le Fantôme de Longstaf* (1996) ©DR

【プログラム1】

ブリジットとブリジット *Brigitte et Brigitte*

[フランス／1966年／75分／モノクロ] 出演:フランソワーズ・ヴァテル、コレット・デコンブ

ピレネー出身の女の子とアルプス出身の女の子が上京したパリで偶然会う。同じ名前を持つふたりは意氣投合し、一緒に大学生活を満喫しようとするのだが…。ムレは首都に到着した瞬間から、自分の生い立ちを忘れ、見知らぬ世界で受け入れられるために規範に従わなければならない若者たちを観察する。フレー、ローメル、シャプロルが友情出演。ゴダールに「真に革命的な映画」と讃えられ、イエール映画祭で審査員特別賞を受賞した。

黒い大地 *Terres noires*

[フランス／1961／19分／カラー]

道路がなく、ほとんど消滅しようとしているようなふたつの村、ピレネー山脈のマンテとアルプスのマリオーを探訪する。題材の深刻さと短編映画の遊び心との間に楽しいコントラストを生み出している。

【プログラム2】

ビリー・ザ・キッドの冒險 *Une Aventure de Billy le Kid (A Girl Is a Gun)*

[フランス／1971年／78分／カラー] 出演:ジャン＝ピエール・レオ、ラシェル・ケステルベール

ひとりでウェルズ・ファーゴの駅馬車を襲ったビリーは戦利品を運ぶのに苦労する。そんな時、ビリーはアンと会う…。ホークスを進んで参照しながら、砂漠、断崖、山道を舞台に、少人数のクルーとわずか6日で唯一無二のシユールな西部劇を撮り上げた。主人公を演じるJ=ピレオーは、この多義的な側面を持つキャラクターを演じることにより、それまでの役やイメージから離れ、俳優としての新たな可能性を示している。編集はジャン・ユスター・シュー。

ウニの陰謀 *La Cabale des oursins*

[フランス／1990／17分／カラー]

北フランスの石炭鉱山跡に残る“ボタ山”が、コロラド州のグランドキャニオンやエジプトのピラミッドと同じように、観光名所とみなされたらどうだろう。地理をこよなく愛するムレがフランスを旅する。

【プログラム3】

カップルの解剖学 *Anatomie d'un rapport*

[フランス／1976年／82分／モノクロ] 出演:リュック・ムレ、クリスティーヌ・エベル

映画監督とそのパートナーが、フェミニズム思想に影響され、カップルとしての関係を分析する。ムレとパートナーのアントニエッタ・ビゾルノの共同監督作品。ドキュメンタリーとフィクションの中間に位置する本作でムレは自分自身を演じるが、ビゾルノは自分の役を「ビリー・ザ・キッドの冒險」のヒロイン、ラシェル・ケステルベール(変名でクリジット)に譲っている。カップルの親密さ、無秩序、異なるニーズを共存させることの難しさについて率直に語るとともに、軽視されがちだった女性の快楽について繊細な探求をしている。

開栓の試み *Essai d'ouverture*

[フランス／1988／15分]

キャップがどうしても開かないとき、どのようにコカ・コーラのボトルを開けるか。

【プログラム4】

メドールの帝国 *L'Empire de Médror*

[フランス／1986／13分／カラー]

犬、その飼い主、擬人化・都会における“人間の親友”的居場所についての辛辣な考察。

映画館の座席 *Les Sièges de l'Alcazar*

[フランス／1989／57分／カラー]

出演:オリヴィエ・マルティニ、エリザベト・モロー、サビーヌ・オードパン

1955年、パリ。『カイエ・デュ・シネマ』誌の批評家ギィは、地元の映画館にヴィットリオ・コッタファヴィの映画を観に行く。そこで敵対する雑誌『ボジティフ』の批評家ジャンヌと会い、恋に落ちるのだが…。シネフィルの日常が痛快に描き出される。

ロングスタッフ氏の亡霊 *Le Fantôme de Longstaf*

[フランス／1996／20分／カラー]

出演:イザベル・ユペール、エレーヌ・ラビオヴェル、ジェフリー・キャリー

原作:ヘンリー・ジェイムズ短編集「ロングスタッフの結婚」

1880年、ノルマンディーの浜辺で、喘息で瀕死の裕福なイギリス人が、若く美しいアメリカ人女性と出会い、恋に落ちる。彼女は彼を拒絶するが、2年後、彼は再び現れる…。綿密なフレーミングと洗練された演技でヘンリー・ジェイムズの世界を見事に描き出す。

ボルドーに囚われた女 *La Prisonnière de Bordeaux*

[フランス／2024年／108分／カラー]

出演:イザベル・ユペール、アフシア・エルジ、マーニュ・ハヴァード・ブレック

カンヌ国際映画祭監督週間出品

ボルドーのある屋敷に一人で暮らすアルマと、郊外に住む若い母親ミナは、同じ刑務所に留置されている夫の不在を中心に生活を組み立てていた。夫たちの面会に訪れたとき、二人の女性は出会い系で波乱に満ちた、不可能な友情を育むことになる…。



©DR